

の女の子にプレハブの2階に案内される。窓越しに見る。私達が教わっていない、またこれまで見たこともない事を岩田さんの命令どおりにこなすのだ。たった3週間で10種類以上の命令どおりにこなすのだ。半年も必要ないのではないか。何だか情けなくなってきた。又それらを私達が覚えられるのだろうか。訓練士だけが出来ても意味無いのではないか。とにかくジュリアンに会いたい。下へ急いで降りる。

ジュリアンの側に行くが尾を振るでもなく寄っても来ない。私達への信頼は失われてしまっても、仕方がない。長い間辛抱させたのだから。でも何か変だ。「ボー」としている。何かを見ているというのではなく、どこか遠くの方に目をやっていると感ずるのだ。どうしたのだろう、とにかく帰ったらたっぷり愛情を注ごうと思った。主任から帰ってからの過ごし方を説明される。「今日一日家に入れるな」という。「小屋に入れカギを閉めて外に出すな」という「ハウスの訓練になるから」と取りあえず「ハイハイ」と返事をする。

今日初めて見せられた訓練の説明も練習もいっこうに始まらない。そして「帰っていいですよ」。SBドッグスクールという訓練所はどうなっているのか。いい加減な訓練所である。そして「血統書を返して欲しい」と夫が言う。「所長の印がないと返せない」ので後日送る」と岩田さんが答える。こちらの希望した日は自分が出張で都合悪いから今日という日にさせておいて又急な出張で居ないという。この訓練所の人間達の物の考え方、行動をどう解釈すればよいのか。理解に苦しむ。

そして血統書は何度も催促をしてやっと1カ月後に返送してきた。一言の書き添えもなければコリークラブや所長の印もどこにも押されていない。シワ一つなく渡した筈なのに何度も折り直したような折りジワが付き折り目部分が破れてきているのだ。とても古い紙のようになっている。「ハンコ」が押されていないことを夫が電話で尋ねると「自分の思い違いで血統書は必要なかったから押してない」と言ったそうだ。それでは何故1ヶ月も返してくれなかったのか。

ひょっとしたらと頭を過る。半年の間で2回ジュリアンにそっくりな顔、形、配色の小犬達を見たのだ。3匹のトライ2匹とブルーマールの5匹の組み合わせを月を空けて2回見たのです。夫に「ジュリアンの子じゃないかしら」と言うが「又お前の考え過ぎだ、他人の犬を勝手に利用する筈がない」と取り合ってくれない。我家に来た頃のジュリアンを思い出させる程良く似ているので岩田さんに尋ねた。「あの小犬ジュリアンと同じコリー犬ね。何カ月位かしら」とすると岩田さんは「1カ月半くらいかな、でもシェパードですよ」と答える。尾は切られて短くなっていた。

私の疑いを更に深くさせたのはその小犬を買い求めるために来ていた家族があった。御主人が「小犬の父親に会わせて欲しい」と言っている。所長は「今、居ないので母親を」と言われて来させる。その母親を見たことがある。そのトライのジェーマンシェパードは「ジュリアンの隣の大舎に居てジュリアンとも仲がいいんですよ」と岩田さんから聞かされたことがあった。

又6カ月前ジュリアンを預けて来た日、岩田さんは「遅かったですね、もっと早く連れて来られるかと待っていたんですよ」と言われ「なかなか決心が付きませんでしてね」と夫が答え「もう来ないのかとおもいましたよ」と語尾を荒げて言う、何故そういう言い方をするのか。そしていつ来ても同じ練習ばかりでジュリアンは教えられていなかったのではないかと思ったこと。

3週間で新しい10種類近くの事を覚えられた子がいつ来ても同じ訓練ばかりで又私達に教えることを嫌がって避けていたこと。紹介者がここへ来たとき「ジュリアンに会わせて貰えなかった」と言っていたこと。所長が我々と会わないようにしていること。まさかと思うが辻褄が合う。そういうえば広島から来られていた御夫婦のレトリバーもうちと同じではなかったのか。何ということか。

ジュリアンを乗せて訓練所を出る。家に着くと息子が待っていた。ジュリアンを抱きしめる顔は本当に嬉しそうだ。それなのに夫は外に連れて出て訓練を始める。心身共に疲れ切っているジュリアンを少し休ませてやろうとは思わないのだろうか。主任らしき人の言い付け通りの事を始めるのだ。小屋のドアを閉めてしまう。気になり小屋を見るとジュリアンが居ない。心配で外に出ようとする。と玄関の外に寂しげに立っている。夫と言い争って家に入れる。それから少しづつだが元の生活に戻りつつある日、我家に戻ってから4日目の事。買い物帰りに公園で息子とジュリアンに会う。ジュリアンが30分程前倒れたという。テンカン発作を起こしたという。息子の顔が真っ青である。そして外に連れて出て私を待っていたのだと。

すぐそこにある我家までゆっくり歩いて帰り、かかり付けの医院に電話をする。主治医ではなくもう一人の女医さんが症状を尋ねられる。「急に口の回りをワナワナ震わせ後ずさりしながら

倒れ全身が痙攣しヨダレを出している」と。そして大きな息をして立ち上がりフラフラしながら頭が物にぶつかりながらも歩き回った」と言う。先生が「どちらの方向に廻りましたか大事な事だからゆっくりでいいから思い出して」と言う。息子が少し考えて左廻りをしたと。それは右の脳に傷が付いたときに出現する症状だと説明される。

そして主治医に替わり午後から見て下さると約束。不安で落ち着かず午後5時の受付時間がとても長く感じられた。

少し早めに医院に着く。主治医は環境の変化だと言う。訓練所での生活と同じようにしたほうが良いという。こんなに疲れているのに？女医さんとの説明とは違っているのに気にはなりましたが取りあえず医院を出た。

10分程走ったところで発作が起きた。急いで病院へ戻る。注射を射た。1回ならば環境の変化かもしれないが2回も起きた。「訓練所ではどうだったか尋ねたほうがよい」と問うてみた。「そうして下さい」というので1時半後に家から電話をする。

主任だと思われる人が「そういうことは無かった、ケガをさせたこともない」と聞いてもいないことまで付け加えてくれる。

イヤ待てよ、戻った次の日に気が付いたのがジュリアンの喉の毛がベトベトしているの、濡れタオルで拭くと血が付いた。喉を触ると腫れ上がっている、その3cm程横の菌も欠けていた。何かおかしい。

何日か暫く落ちていた時間が流れる。

今度は散歩中いつも吠えてくる犬がいたので近付けないようリードを引っ張ったら倒れたといつて真っ青な顔で戻ってくる。その後何度か倒れたので主治医の元へ。車中でも2回起こる。

主治医は「何かがきっかけで訓練所を思い出したときに発作を起こすのかもしれない、車中で起こすのは車に乗せられて訓練所へ行ったときをおもいだすからではないか」と言う。注射を射た薬をもらって帰る。薬の影響から喉が渇くらしく何度も水を飲み始める。長く飲んでる割に水の量があまり減っていない。薬で舌が麻痺しているのだろうか。水を飲み始める以外は死んだように眠っている。又、何日か落ち着いた日が続く、走る元気も出てきた。雪の日は大喜びで走り回る。どれだけの日が続いたのだろうか安心してしまっていたところで又倒れる。何度も起こす主治医の元へ。注射。

先生は原因が解らないと言う。何かきっかけがある筈だと。息子は「思い当たるのはリードを引っ張った後発作を起こすことが多いように思う」と、でも主治医は「リードは普段から引っ張って居るでしょう。それなら毎回起こるはずで他に原因があるように思う」と又「コリーやシェルティーにテンカン持ちが多いだから先天的なものかも知れない」と。何故か今頃女医さんが言った脳に傷が付いた時に起きる症状だと言った言葉が耳から離れない。我々の前でも平気で頭や首を叩く所長を見てきた。主治医には伝えてきた。暴力的な叩かれ方をしていた。ドイツチェーンを喉に食い込ませるような引っ張り方をされていたこと。それでも先天的なものだと思っておられるのだろうか。

家に着く。この日は夜中も朝まで何度も起こる。主治医は起きた時間と秒数を記録してくれという。私達は、言われるままどうするすべもなく発作を起こして苦しんでいるジュリアンを見ていなければならないのか。主治医の言われるまま秒針を見つめていなければならないのか。発作が治まって立ち上がりフラフラしながら物にぶつかりそこから左へ今度は右廻りもする。

10分位歩き回っているジュリアンを見るのは辛く息子が入院させて欲しい主治医に頼む。準備しているところへ夫が帰宅、頼んで1時間近くかかる塚口動物病院の主治医の元へ。

2月20日ジュリアン歩いて診察室へ、入院。

2月21日朝経過報告の電話をくれる。落ち着いて居るとのこと。何日か落ち着いた日が続き喜んで居たところへ発作が起きたようだ。静かな場所の手術室に置いてもらっているジュリアンが「ヨダレを出して倒れていたのデテンカンが起きた」と思われる」と。横になったまま動かない。出きるだけのことはするが覚悟していても。寝たまの状態で何日か続いていたある日、夫がジュリアンに面会させてもらってきたと。呼ぶと気づいて頭を持ち上げようとしたことを聞かせてくれる。希望が持てる嬉しい。明朝、主治医が昨夜の状況を報告して下さる。「私や息子も、毎日来てやって欲しい」と。「先生や看護婦さんが呼びかけても動こうとしなかったジュリアンが必死で頭を持ち上げようとしたこと。家族に会うことがリハビリになると思うので来てほしい」と。ジュリアンは良く水を飲む子なので脱脂綿と先の丸い箸、水の器、ジュリアンの好きなバスタオルを持って息子と二人で急ぐ。

手術室の隅で毛布にくるまって横たわっている。息子は声にならずジュリアンの全身をさすってやる。息子はジュリアンの